高岡市男女平等推進プラン情報誌

# ありーて

わたしの未来はわたしが創る

2008春
5号

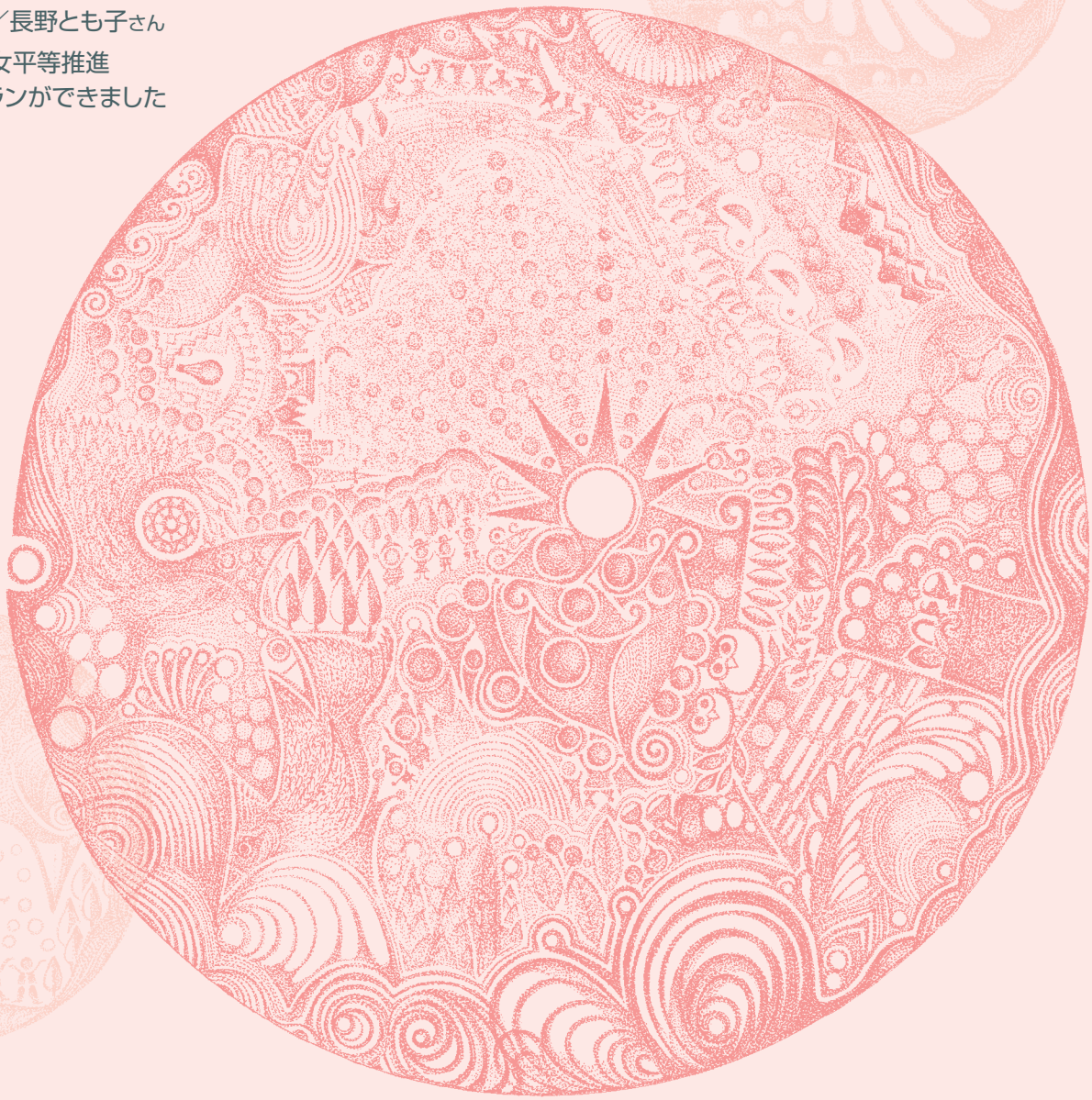
「ありーて」は
自分の力で問題を解決していく
イギリスの童話
「アリーテ姫の冒険」の
主人公の名前です。

## 特集 すこしずつ、準備しておこう 家族とわたしの高齢期

### ～住みなれた地域(まち)で暮らし続けるための支援～

もくじ

わかいもん／美容室経営者
塩谷伊甲子さん
センター活動登録団体紹介
ぼくの育児&育自日記／林　隆史さん
セピア色の写真から／長野とも子さん
お知らせ／高岡市男女平等推進
プランができました



開町400年 Anniversary The City of Takaoka 1609-2009

利長くん

すこしずつ、準備しておこう

# 家族とわたしの高齢期

## ～住みなれた地域で暮らし続けるための支援～

家族や自分自身が高齢期を迎えた時、大きな心配事のひとつは、【介護】ではないでしょうか。今回は、住みなれた地域で安心していつまでも暮らし続けるための支援と取り組みを紹介します。

今世紀半ばには、[※1]国民の３人に１人が65歳以上という超高齢社会を迎えるといわれています。また、[※2]高岡市の65歳以上の人口割合は25.2%（平成19年10月現在）で、全国と比較しても高い割合となっており、近い将来、多くの人が家族や自分自身の高齢期に差し掛かり、何らかの形で介護に関わることが予想されます。

※１　ほっと福祉プラン21（高岡市）
※２　富山県人口移動調査

『高岡市男女平等推進プラン』では、五つの基本目標の一つに「家庭生活や仕事、地域活動等における平等な参画とそれらが両立できる環境の整備」を掲げています。男女が安心して、育児・介護と仕事等を両立できる環境づくりや、高齢期を安心して暮らせる条件の整備は、重要な課題となっています。

介護が必要になった場合や、高齢者の日常生活で困ったことがある場合は、市役所の高齢介護課の窓口などで相談することができます。また、介護保険関係だけでなく、様々な福祉事業についてのパンフレット類も充実しています。

高岡市内では、介護が必要な状態になっても、住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、高齢者とその家族を支援する施設や取り組みが、最近は増えてきました。

その中から編集員が関心を持ったいくつかの取り組みや、そこで働く方たちの介護にかける思いなどを紹介します。

また、これから高齢期を迎える人や家族の介護が必要となる人に向けてのアドバイスもいただきました。

高岡市が発行している、高齢者支援や介護保険に関するパンフレット

### 地域のお寺が介護施設

お寺で介護施設を運営するご夫婦がいらっしゃると聞き、訪ねました。高岡市二塚にある歓盛寺の敷地内には**特定非営利活動法人「よりどころ」**の施設が建っています。

施設を運営する住職の仙田さん夫妻は元々、別の介護施設職員でした。「高齢者自身が望む場所で、望む人たちに囲まれて暮らし、最期を迎えられるよう支援したい」という二人の思いに賛同するスタッフと共に、平成十七年に本堂横の住居を改築して開所。現在は、富山型デイサービスやショートステイ、居宅介護支援事業、地域の介護啓発事業を行っています。利用者は、レクリエーションや機能訓練、境内を散歩するなどして過ごします。小さい頃からお寺に親しみ、思い入れがある高齢者たちは、家族から「デイサービスに行ってこられ」と言われると敬遠しがちですが、「お寺に行ってこられ」と言われると〝行って来ようかな〟という気持ちになるそうです。また、高齢になると精神的に不安定になることも多いため、利用者の了解を得ながら、お寺であることの良さを日々の介護に活かしているそうです。

「ご家族の理解や医師の支援、職員のレベルアップなど、克服すべきハードルはあるが、高齢者の多くは自宅で最期を迎えたいと希望しています。いずれは、在宅の高齢者の看取りまでを含めた支援をしていきたい」と仙田さんは考えています。

上）境内に実った梅の収穫をする利用者とスタッフ

左）イチゴ狩りなど、外出する行事を取り入れる施設も多い

【特定非営利活動法人よりどころ】

**解説**

●**富山型デイサービス**：子どもや高齢者、障害のある人が年齢や障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域の家庭的な施設でデイサービスを受けることができる。●**訪問介護（ホームヘルプサービス）**：ホームヘルパーなどが家庭を訪問して、食事・入浴・排泄の介護や炊事・掃除・洗濯など日常生活の手助けを行うサービス。●**通所介護（デイサービス）**：デイサービスセンターなどに通い、食事・入浴の提供や日常的な動作訓練、レクリエーションなどを受けるサービス。●**短期入所生活介護（ショートステイ）**：短期間において施設に宿泊しながら介護や機能訓練など日常生活上の介護を受けるサービスを提供する。●**居宅介護支援**：介護サービス計画の作成、居宅サービス事業者との連絡調整や介護保険施設への紹介等のケアマネジメントを行うものを支援する。

上）職員のお二人は、施設長の津幡さんをはじめ団塊の世代。「ドンと来い、という感じで利用者とも話が合うんです」と宮崎さん

右）おしゃべりやカラオケを楽しむ利用者【茶の間横町ぽぴー】

季節の野菜を栽培・収穫し、お昼やおやつで味わっている【JA高岡もえぎの里】

## 介護保険を使わない交流サロン

市内で「デイサービスぽぴー」を運営する日本労働者協同組合連合会センター事業団高岡地域福祉事業所が平成十八年に開設した**「茶の間横町ぽぴー」**（横田町）は、介護度に関係なく六十歳以上なら誰でも利用できる高齢者の交流サロンです。利用者はここで、お風呂や和裁、料理などを思い思いに楽しみ、必要な人には職員がお風呂の介助も行っています。一日の利用者は五～十人。中には姉妹や友人同士での利用、市外からの利用者もあり、無料で送迎もしているそうです。

この事業を始めたのは、「要介護」と認定されデイサービスを利用していた人の介護度が軽くなり、今までと同じようなサービスが受けられなくなることにより、「これまで家族のように思いお世話してきた利用者が、家に引きこもって、介護度を再び悪化させてほしくない。住みなれた地域で元気に暮らすためには、介護度に関係なく気軽に利用できる場所が必要」という、所長の宮崎さんの思いからです。

「昼食込みで利用料は一日千円です。採算を考えると難しく、デイサービスの収益で下支えしています。普通は、お金の儲からないことはやるなとなりますが、非営利なので〝意義のあること〟と本部にも認めてもらえました」と話す。建物は築百三十年の町屋を借りています。格子戸や朱塗りの壁、広い縁側や中庭もあり、旧家の趣きある造りをそのまま利用していて落ち着いた雰囲気があります。

## 月額制で、通いも泊まりも訪問も

小規模多機能型居宅介護は、平成十八年の法改正により始まった介護サービスの新しい形です。現在、市内に三つあり、**「JA高岡もえぎの里」**（二塚）センター長の荒木さんによると、こういった施設は増える方向にあるそうです。

小規模多機能型は利用料が月額制（食費・居住費別）で、要介護と認定された人は一つの施設でデイサービスとショートステイ、訪問介護を柔軟に組み合わせて利用できるようになっており、例えばデイサービスの利用者がそのまま施設に泊まることも可能です。通常、大きな施設などではサービスが異なると対応する職員体系が異なってきますが、ここでは登録会員の定員十五人で、従事する職員が全てのサービスを提供するため、利用者は「なじみの関係」を築きやすいそうです。また作業ができる人には敷地内にある畑づくりを楽しんでもらっています。

「農家の方たちは、先祖からの土地を大切に守り、農業を営んできました。だから、そこに住み続けることは大事な基本です。介護をプロに任せても、家族にしかできないふれあいや愛情が必要です。私たちの施設は居宅介護サービス施設であって、丸抱えする施設ではなく、在宅での生活継続を支援しています。かといって、自宅での介護は女性だけが担わなくてはならないということではありません。それに、介護は時には息抜きしないと長続きしません」と荒木さんは話します。

## ご近所の見守りボランティア

在宅の高齢者の見守りなどのボランティアを、同じ地域に住む住民がそれぞれのできる範囲で行っていこうという取り組みが、市内でも始まっています。**社会福祉法人「高岡市社会福祉協議会」**地域福祉課の佐々木さん、若林さんにお話を伺いました。

平成十九年度から始まった「ふれあいコミュニティ・ケアネット21」は、地域において支援が必要な高齢者などを対象に、同じ地域に住む人たちがチーム（ケアネットチーム）をつくり、昔から地域に有った見守りや話し相手、ゴミだしなど、高齢者のニーズにあった助け合いを地域全体で進めていく事業です。

誰もが地域で孤立することなく、安心して生活できる福祉のまちづくりを目指し、同協議会が事務局となって推進しています。市内全二十七校区で実施し、平成十九年末では二十三校区・百四十一件の申請があったということです。

ホットケーキづくりを楽しむ利用者【JA高岡もえぎの里】

## 取材にご協力いただいた方々からのアドバイス

# いずれ迎える、家族やわたしの高齢期。どんなことを準備し、考えておけばいいの？

### 日本労働者協同組合連合会センター事業団 高岡地域福祉事業所

所長　宮崎弘美 さん

人が、人として最期を迎えるためには、やっぱり地域で暮らし続けることが良いのではないでしょうか。そのためには家族だけではなく、私たちのような専門性を持つ者の力を借りて欲しいし、地域の方たちの力を借りることも大切だと思います。たとえ認知症になっても、ご近所さんの声かけや見守りがあれば、少しでも長く地域で暮らし続けられるのではと思います。

また、高齢になると「年（とし）やから…」と、段々いろんな事に関心を持たなくなってしまいます。高齢になっても家に閉じこもらないで、是非こういった“お茶の間”的な所や老人福祉センターなどを利用して、みんなと話したり、いろんな物を作ったりして楽しみ、元気でいられたらいいですね。

### 特定非営利活動法人 よりどころ

介護支援専門員　仙田美穂 さん

介護が必要になった場合、介護事業所との関わりは身近で日常的なものとなります。事業所は場所や環境、雰囲気などそれぞれ特徴は様々です。住まい選びの様に日頃から足を運び、情報を集め、居心地の良い自分に適した所を選考しておくことは、自分の老いと向き合うなかで重要な要素といえるでしょう。

副理事長　仙田智治 さん

多くの人は高齢になっても「なるべく元気で」とか、「体は弱っても、これからまだまだ成長せんなん」と思っている人が多いが、無理にそう思わないでほしい。

老いを受け入れる準備ができているか、できていないかで、その後の心身の状態にも大きな違いが見られます。また、老いを他人事ではなく、自分のこととして知ろうとすることも大切です。

「年いったから大事にする」だけでは、心が閉ざされていくのではと思います。いろんな人と会って交流を持つことは年をとってからがむしろ必要です。体を動かし、人と人とのコミュニケーションを豊かにしたいものです。

介護は、子育てのように何年で楽になると言うものではなく、果てしないものです。被介護者を持つ家族は、家族だけで抱え込むと、にっちもさっちも行かなくなり、イライラして心にもないことを言ってみたり虐待に繋がったりしがちです。

そうならないために介護サービスがあるのです。少しでも離れる時間があればこそ冷静に被介護者を見ることができるのではないでしょうか。

### ＪＡ高岡もえぎの里

福祉事業センターもえぎの里　センター長　荒木富美子 さん

“どう生きるか”は“どう死ぬか”ということだと思います。人に助けてもらいながら、この世を仕舞っていけるように、本当の意味で自立して生きて死んでいけたらと思います。自分ひとりで家族のことも何もかも抱え込んでいて、その人が亡くなった時に残された家族がバラバラになってしまった例もありますから。

高齢者は、ＳＯＳのアンテナがどう支援情報につながるのか分からない人が少なくありません。老いて心細くなった時、どこにアクセスし、誰とつながればいいのかなどと心配をしなくても、隣近所の若い人がちゃんと見ていてつないでくれる、そんな町だったら安心して住めるのではないでしょうか。

### 高岡市社会福祉協議会

地域福祉課　課長代理　佐々木良子 さん

市内に沢山の事業所がある中で、ほんの一部の方々への取材でしたが、どなたからも高齢者福祉への熱い思いと私たちへのアドバイスをいただき、ありがとうございました。

どのような支援を受けるかは、高齢者本人の状態や家庭環境などにもよりますが、高齢者とその家族が安心して地域に暮らし続けるための、柔軟で多様な取り組みにより、高齢期の暮らし方の選択肢が広がっていることを知りました。

団塊世代も六十代になり、これから急速に高齢社会に向かいます。一家族で極端な場合は、夫の両親と妻の両親が同時に介護の対象となる四重介護のケースも有り得ます。

男性も女性も、介護を共有すべき時代が来ています。現実に、いま介護に携わっていらっしゃる職場の方や家族の方々のご苦労やご意見などを聞く機会を持つことで、これからの備えのヒントが見つかるのではないでしょうか。

私たちが高齢になっても安心して暮らせる制度や環境作りに主体的に関わりましょう。

ありーて編集員がおじゃまします

# わかいもん

高岡で活躍する男女を紹介していくコーナーです。今回は、二十五歳の若さでご自身の美容室を開店し、現在も子育てしながら六人のスタッフを率いる、塩谷伊甲子さんです。

## 目標に向かって

美容師を母に持つ塩谷さんは、小学生の頃から美容師になることが夢だった。六歳の時に父親を亡くし、十三歳の時に母が独立して店を構えた。多感な時期に苦労する母の背中を見て、嫌だと感じたこともあったが、高校生になる頃には自分も美容師として店を構えたいと強く思うように。それからは目標に向かってただひた走る日々だった。高校を卒業するとすぐ、美容室で働くかたわら、通信教育で美容師資格を取得するために勉強した。

独立を常に考えていた塩谷さんは「技術を磨いて、ほかの誰よりも上手になりたい。同期にだけは負けたくない」そう思って練習に励んだ。そんな時、美容師歴が三年以内ならエントリーできるというワインディング（パーマ巻き）コンテストの北陸大会に出場することに。参加二年目には二位になることができたが、全国大会に行けるのは優勝者のみ。悔しくて夜も眠れなかった。三年目はワインディングを中心に猛練習を積み、ついに念願の全国出場を果たす。全国大会では北陸初の入賞で五位という成績を修めた。そこで現在、所属しているドライカット※という手法を推奨しているグループの会長と出会った。技術はお客様が善し悪しを決めるものだから、技術の向上だけが一番であるとは思っていなかったが「自分がやりたいと思っていたのはこれだ」と、それを機にドライカット発祥の地であるニューヨークに毎年、行くようになる。日本と違い、ニューヨークはカットの手法がアーティスティックで、美容室同士の競争が激しく、経営にも役立つことが多いため、さまざまな美容院を訪ねているという。

そして平成十四年、市内中曽根に美容室hair make pure（ヘアメイクピュルテ）teを開店。今、振り返るとそれまでの基盤を作るのが一番難しかったと話す。当時は二十四歳で貯蓄も何の担保も無く、銀行から融資を受けるのが困難であったが、いろんな人に頼み込んで、何とかオープンに漕ぎ着けた。しかし、二ヶ月でスタッフ全員が辞めるという大きな挫折を味わった。「その頃は、経営者というものがどんなものなのか理解できず、がむしゃらすぎて色々なところに無理がかかっていた。何度も悩み、笑うこともできない日もあったが、技術でなく、人間性。やり方ではなく、在り方と考えるようになり吹っ切れた」という。そのことがあってからは、現在いる六名のスタッフの一人ひとりが考えるスタイルを経営者としてどう実現していけばよいのかと考えるようになったという。

「勤め時代は、やりたいことができないもどかしさがあったが、今はやりたいことができる。近い将来は、育ってきているスタッフのためにも二店舗目を考えたい。自分では美容師を最後の職業だとは思っておらず、枠に捉われないアートな世界をもっと追求したい」と話す塩谷さんの関心は、美容全般だけでなく、英会話を習い、美術館に行くなど、常にアンテナを立て、自分磨きを怠らない。

## 両立の難しさ

二十歳で結婚し、小学一年生のお子さんのお母さんでもある塩谷さん。出産直前まで勤め、生まれて一ヶ月半で職場復帰したが、授乳で眠れない日もあったという。子どもが一歳の時に店舗の土地を探し始め、二歳の時に独立した。これで良いのかと考えたこともあったそうだが、「美容師の先輩は皆、子どもを産んで独立しても何とかやっている。周りに協力してもらえばできないことはない」と、自分を奮い立たせた。

昨年、大阪で開かれたドライカットの勉強会に参加し、更なる技術の向上に励む塩谷さん

しかし、家事と育児、仕事の両立は思った以上にハードだった。月に一度の県外での勉強会に加え、毎年ニューヨークにも行く。やりたいことが増えると家を空ける回数も増える。子どもに手をかけてあげたいと思うが、時間がとれず難しかった。そんな中でも自分が目指した夢からぶれることは一度もなく、ただひたむきに追い続けてきた。「子育てと仕事の両立ができるのは家族をはじめ、周囲の協力があるからこそ」だという。

「子どもは真っ直ぐに母を見ようとしている。子どもの成長と共に、自分も成長したいと思うようになった。今は、無理に仕事をしたいとは思わない。子どもと、もっと関わりたい」と話す。

### ■取材を終えて

まっすぐに、夢を追いかける塩谷さんの枠にとらわれない自由さと、芯の強さを感じました。

※ドライカット…
乾いた髪のままで一本ずつデザインし、時間をかけてカットしていくもの。髪は濡らすと癖や頭の形が分かりづらくなり、後で違った出来になることもあるが、これを用いるとその心配はなく、より芸術的な仕上がりとなるそうだ。

# 高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

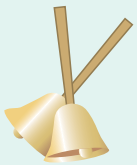
**あなたのグループもセンターに登録しませんか？**

下記の団体・グループへのお問い合わせは、高岡市男女平等推進センターTEL（0766）20-1810まで。
センターのホームページ（http://www2.city-takaoka.jp/gec）でも、登録団体・グループを紹介しています。

2008年
2月末現在の登録
55団体

## リンベル

リンベルはミュージックベルの演奏を始めて、まもなく10年になるボランティアグループです。ベルの演奏は、各々が異なる音階を受け持ち、自立しながらも仲間と連帯して、皆の気持ちが一つになった時、聴く人の心に〈癒し〉の音楽を届けることができます。そして『安らぎ配達人』として、高齢者施設などを飛び回っています。



## 高岡中央消費サークル

富山県消費者協会、高岡市消費者連絡会、高岡女性の会連絡会に属し、センターを情報収集の拠点として、各団体相互の交流を図っています。県内外の業界の施設見学や懇談、研修、市のリサイクルセンターで牛乳パックから葉書づくり、廃油から石鹸づくり、古傘で作ったマイバッグ運動、衣類のリフォーム、県の中央研修会での展示発表、市長と年末の早朝市場廻り、年末年始の食料の入荷状況を知り市場関係者と懇談などの活動をしています。

## 子育てほっとカフェ

子育てサークルリーダーのネットワーク化を目指して「子育てほっとカフェ」は誕生しました。新しい形の子育て支援として、サークルのネットワーク作りだけにこだわらず、子育ての主役である父母を対象にしたイベント開催を通して、子育て仲間の出会いの場、ほっと一息つけるくつろぎの場を提供しています。

## 新　樹　会

この会は平成2年『高岡市政に女性議員を』の声により誕生しました。そこで「女性の政治参画を進めることを目的とする」。そのために必要な学習として、「女性と政治」をテーマにした情報交換や講演会等を開催し、また事業として、イデオロギーに関係なく立候補しようとする女性に推薦支援等を行い、その目的達成のための活動をしています。

## ぼくの育児&育自日記

**林　隆史さん**

市内在住。4歳、2歳、0歳の育児中。自営業。

「私は三児の父です」ポンポンポンと、みんな元気に産まれて二男一女。この場をお借りして改めて、「ママ、頑張った。ありがとう」感謝の気持ちでいっぱいです。

我が家の子どもたちを少し紹介します。先ずは長男。すぐに泣きじゃくるが、弟・妹思いの四歳。怒られても踊っているわんぱく二歳の次男。そして顔が私にそっくりな四ヶ月の長女。（ママに似ていれば良かったのに…）この先どうなることやら、不安も楽しみもいっぱいの毎日です。

育児については、自分ができること、オッパイ以外はなんとか頑張っています。例えば風呂、さすがに風呂好きの三人を入れるには大変なエネルギーを使います。四ヶ月の長女を素早く泡タイプ石けんで仕上げ（三人目になればもう技師です）、長男・次男をなんとかごまかしながら頭、体を洗います。終わった頃には、自分がのぼせあがってしまいます。そして歯みがき、これもなかなか。長男はママ担当で、次男は私がやります。指を噛まれたのも何度か…（イタイ）。

そして部屋に行き、夜のメインイベント〝戦いごっこ〟が開始されます。「パパVS子どもたち」真剣な顔で戦いに挑んでくる姿は何とも頼もしい限りです。ママの「ハイ！寝るよ」の一声で戦い終了。就寝。ぐっすり子どもたちと一緒に自分も夢の中へ…。こんな感じでやっています。

子育てを楽しむ。夫婦で育児をする。母親の一番の理解者、協力者になり、これからも心と体のふれあいを大事に、子どもたちと共に親も成長していきたいです。

# セピア色の写真から

## 「気が付けば生涯現役」

## 長野とも子さん

（一九一九～）

東京から高岡に移り住み、夫のあとを引き継ぎ、北陸の地で[※1]箏曲発展に尽くし、今なお八十九歳で箏曲を教授する生田流宮城社大師範。平成四年に高岡市市民功労賞を受賞。

二十歳の頃のとも子さん

### 琴を習う

長野とも子は、大正八年十月、東京新宿に生まれ、両親と姉、妹と暮らしていた。父方の祖母が琴を弾いていたためか、父は三姉妹に琴を習うことを望んでいた。とも子は小学二年から習い始め、学校帰りに毎日、先生の家へ稽古に通った。先生が引っ越すと、先生宅の近所にある小学校へと転校させられた。気が付くと姉と妹は琴から離れていた。

ある日、〝お琴の爪が無くなれば、もう習わなくてもよくなる〟と考え、帰り道の土手に爪を放り投げた。帰宅し、父に爪を失くしたことを伝えると、新しい爪を買い与えてくれ、次の日に土手を通ると、爪の入った巾着が木の枝につるされていて二度がっくりしたと話す。

月日が経ち、東京音楽学校分校箏曲科（現東京芸術大学音楽学部）で学んでいた二十歳の頃には弟子を持つようになっていた。

### 高岡へ

とも子が二十三歳の時、縁談が持ち上がる。四つ年上の信秀である。幼い頃の病気が原因で盲目であった信秀は音楽好きで、ピアノを弾き作曲も手がけていた。大分から上京し、箏曲を[※2]宮城道雄に師事していた。とも子は気が進まなかったが、父は「信秀と結婚したら一生お琴を続けてくれる」とたいそう喜び、結婚の段取りを進めた。結婚後は京城（韓国）で暮らしていたが、戦争が始まり広大な敷地の自宅は軍に占領され、琴さえも持ち出せずに日本に引き揚げ、茨城に移り住んだ。

昭和二十六年に宮城道雄が生田流から独立し、生田流宮城社となり、信秀も宮城会発展のため心血を注いでいた時、宮城道雄から「北陸の門下生のため、教授してもらえないか」と頼まれ高岡に移り住んだ。後で知ったが、高岡は父の出身地であった。

結婚後、とも子は主婦業に専念し、琴を弾くことも無かった。二人の娘を育てるかたわら、信秀の出稽古には必ず同行した。金沢で出稽古をしていたある日、信秀は「具合が悪い」と横になり、それきり五十三歳の短い生涯を閉じた。とも子四十九歳であった。

### 主婦から表舞台に

その後、宮城会が北陸支部長後任を模索していた時、当時の宮城宗家宮城喜代子はとも子を推挙した。周囲は、「えっ、どうして？」という反応だった。当時は誰も、とも子が琴を弾けるとは知らなかった。結婚後は琴を弾くことも無く、自宅で信秀と合奏することも無かったが、宗家の喜代子は東京音楽学校分校箏曲科時代のとも子をよく知っていたのだ。琴を習い教えていたとはいえ、流派の違いから、宮城会の免状を習得することから始まった。宮城会北陸支部は北陸三県と新潟をまとめる。全国で九人いる支部長職を、五十歳から八十七歳まで実に三十七年間も任され、宮城会の試験官も務めた。そのかたわら、多い日で一日に三十人の生徒を教えた日もあったという。現在も金沢へ出稽古に通っている。自宅には週五日、遠くは福井からも弟子が稽古にやって来る。弟子の一人は「先生は細かい注意をしないが、すべて分かっているゆえ、あえて言わなかったのだと後になって気付く。先生のお琴は古い物なのに、音色は透き通っていて深みがあって優しい。同じ様に弾いてもその音色は、何年経っても出せない。会でも決して偉ぶることは無く、弟子の立場や会の立場で物事の判断をされる方だから、人が付いてくるのでは」と話す。

とも子は楽譜の無い時代から琴を始め、ほとんどの曲が暗譜である。天性の絶対音感の持ち主で、何十人が一緒に弾いても、誰の音が外れているのかが判り、寸分の狂いも無く調弦する。「正座は全然苦にならないけど、未だにお琴が好きだと思ったことがないのよ。でもそう言いながら八十年も経つのよ。嫌になっちゃうわ」と笑う。とも子、現在八十九歳。まさしく生涯現役である。

（敬称略）

「箏と尺八の演奏会」に三味線で出演するとも子さん（中央）

※1 箏曲（そうきょく）…邦楽の一種目。箏（琴）による音楽。弾き歌いが本来の様式。歌のない器楽曲もあり、三味線・尺八・胡弓（こきゅう）との合奏もある。

※2 宮城道雄…作曲家・箏曲家。「春の海」の作曲者でもある。邦楽の発展に尽くした。昭和三十一年逝去。

# お知らせ

高岡市男女平等・共同参画課
高岡市男女平等推進センター

## 高岡市男女平等推進プランができました

プランは、男女平等・共同参画を推進する市の施策の基本計画と具体的に取り組む事業計画を定めたもので、市、市民及び事業者等（市内の法人、個人事業所及び民間団体）が共に取り組む行動計画です。 計画の体系は右図のとおりです。

計画期間は、2007（平成19）年度～2016（平成28）年度までの10年間です。〔2011（平成23）年度までの5年間は前期事業計画期間〕

全ての人が、「家庭生活の場」「仕事の場」「地域活動の場」「学校や保育の場」において、自らが「参画すること」「家庭や仕事、地域活動などを両立すること」「互いに尊重し認めあい、健康で輝くこと」に取り組みましょう。

また、全ての人がそれらの取組をそれぞれの立場で「支えること」で、市の男女平等・共同参画を推進しましょう。

プランは市ホームページで公開しています。
➡ http://www.city.takaoka.toyama.jp/kikaku/0208/index.html

認めあい 支えあい 共に輝く ひとと まち

| 基本目標 | 重点課題 | 施策の方向 |
|---|---|---|
| Ⅰ 男女があらゆる分野に平等に参画できる機会の確保 | 1. 政策・方針決定過程への男女平等・共同参画の推進 | (1)市の施策・方針決定過程への共同参画の促進<br>(2)事業者の方針決定過程への共同参画の促進<br>(3)地域活動組織等の方針決定過程への共同参画の促進 |
| | 2. 固定的な性別役割分担意識等による慣行等の解消 | (1)あらゆる場における男女平等・共同参画の視点・気運の醸成や配慮<br>(2)多様な選択を可能にする教育、学習等の充実 |
| | 3. 地域活動の場での協働や男女平等・共同参画の推進 | (1)市民の参画への支援<br>(2)参画とまちづくりとの有機的な連携の促進 |
| Ⅱ 家庭生活や仕事、地域活動等における平等な参画とそれらが両立できる環境の整備 | 4. 仕事と育児・介護等とを両立するための環境の整備 | (1)子育て支援の整備・充実<br>(2)ひとり親家庭等への自立支援の整備・充実<br>(3)高齢者、障害者への介護・自立支援の整備・充実 |
| | 5. 家庭・地域活動における男女の相互協力の推進 | ・男女の共同意識の促進 |
| | 6. 国際化社会における理解と交流 | (1)地域における在住外国人との共生<br>(2)国際的な女性問題等への理解と国際交流等の推進 |
| Ⅲ 男女が個人として尊重され、能力が発揮できる環境の整備 | 7. 仕事の場における男女の共同参画の推進 | (1)雇用の場における男女平等の視点の促進<br>(2)女性の能力開発・育成の促進 |
| | 8. 人権尊重の意識の醸成 | (1)学校教育等での人権尊重を進める学習の推進<br>(2)生涯学習での人権尊重を進める学習の推進<br>(3)人権擁護体制の推進 |
| | 9. あらゆる暴力的行為や虐待の根絶 | (1)配偶者等からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）の防止<br>(2)子どもや高齢者等の虐待の防止 |
| Ⅳ 男女の健康の確保 | 10. 男女の生涯を通じた健康支援 | (1)健康管理・保持増進のための支援<br>(2)妊娠・出産等に関する健康支援<br>(3)健康をおびやかす問題についての対策の推進 |
| Ⅴ 計画の総合的な推進 | 11. プランの有機的な推進 | (1)男女平等・共同参画の理解・促進<br>(2)推進体制の充実・強化 |

## 編集後記

**浪　美智代**
私自身に色々なことがあり、あっという間の2年間でした。経験したことの無いこと、気づかされたこと、世の中いろいろな人が居るから、面白いのだと痛感し、これから先の40代、良いことも悪いこともすべてが肥やしに出来る人間になりたいと願っています。

**秦　美代子**
2年間の編集委員の任期を、この号で卒業します。あっという間の楽しい一瞬でした。取材を通して素敵な人たちとの出会いがあり、日頃から関心のあった事柄については自分なりに整理が出来、余り興味の無かったことも、書くことで自然と「学ばせていただいた」という気持ちになりました。取材に協力して下さった沢山の人と、読んで下さった皆様に感謝致します。

**酒井　克岳**
介護というものは、もし家族だけで抱え込もうとすると、どうしても特定の人に負担が集中しやすく過酷なために破綻をきたしやすいものです。私たち社会全体で知恵とヒト・モノ・カネなどのリソース（資源）を出しあって取り組むことが、今後より一層必要になると思います。

**若杉　幸子**
編集員としての2年間はあっという間でした。ありーてを通して我が家にも協力がチラホラ芽生えました。たくさんの素晴らしい出会いに感謝します。

市民編集員の皆さん、2年間、
本当にありがとうございました。
今号で上の皆さんの任期が終了し、
次号からは、また新しいメンバーで
お届けします。

**発行／高岡市男女平等推進センター**
〒933-0023　高岡市末広町1-7（ウイング・ウイング高岡6階）
電話／0766-20-1810　FAX／0766-20-1815
E-mail／gec@office.city.takaoka.toyama.jp
ホームページ／http://www2.city-takaoka.jp/gec/

●「ありーて」は上記のＨＰでもご覧いただけます。
●この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありーて」は男女平等・共同参画の推進を目的に、公募の市民編集員により作成しています。

表紙イラスト：和田 玲子さん（高岡市在住）
ありーてキャラクターデザイン：山崎 可菜さん（高岡市出身）